

平成 29 年度 第 1 回各務原市まちづくり推進会議 議事録

○日時：平成 29 年 7 月 13 日（木）午前 10 時から正午まで

○場所：本庁舎 4 階第 2 委員会室

○出席者

委員

柳原会長、岩田委員、松尾委員、紙谷委員、竹内委員、ダーリンプル委員、藤吉委員、
小鍋委員

オブザーバー

岡田氏

事務局

企画総務部長、企画政策課長、財政課長

【まちづくり推進会議委員の委嘱】

新任 藤吉委員、交代 ダーリンプル委員、松尾委員

【市長あいさつ】

いろいろな分野の方々に集まっていたことは、非常に大きな意味合いがあるというふうに思っております。柳原会長には、いろいろな立場で役を引き受けていただき、委員一人ひとりに必ずご発言をいただき、そういった進行をしていただいております。中身の濃い司会進行をしていただいております。各務原市の発展という意味合いを込めて、本日の会議をよろしくお願ひしたいと思います。

昨日の雷雨によりまして、市内でも水害や停電、一部火災があったと聞いております。今日も降るやもしれません。ぜひ、皆様方には健康にご留意をいただき、約 2 週間後、行革でご足労いただくということになっておりますので、よろしくお願ひします。

【議事】

- ・各務原市総合計画の達成状況について
- ・各務原市総合戦略の達成状況について
- ・しあわせ実感かかみがはら総合戦略への KPI 追加について

【A 委員】 事務局からの説明を求めます。

【事務局】

- ・各務原市総合計画の達成状況 基本目標①～③ 説明略
《質疑・意見》

【A 委員】 以上で説明は終わりました。一問一答形式でいきたいと思ひます。皆さんから

ご意見が出たら、即事務局からお答えをいただきたいと思います。

【E 委員】 基本目標1の市民協働のまちづくりに関わりたいと思っている方という割合が増えているという表があります。前も発言をさせていただいたのですが、「まちづくりってどういうこと」と思っている市民の方は、圧倒的に多いというふうに思っています。いっぽかフェとか新しいことが始まっているなという感じはあるのですが、そこに踏み出そうとしている市民の方は、普段からまちづくりを意識している人にどうしても限られるのではないかと思います。多くの方にまちづくりに関わっていると実感してもらうためには、まちづくりに参加しているというよりは、これなら関われるなということに関わっていただくことがまちづくりということだと思います。

市の職員の方は十分にやっつけらっしゃると思います。効果の有無はあるにしても、今やっていることをもうちょっと工夫したら、よくなるのではないかなと。例えば、シティマラソンもずっとやっていると思いますが、地域によっては地域の産物をアピールする場ということもあるので、地域で今やっていることにもうちょっと関われる仕組みを作ってもらえたらなと思います。

【A 委員】 総論的なことではなくて、すでに取り組んでいるものも後の展開によって、まちづくりに寄与できるということが取り組みしやすいと思います。

【企画政策課長】 生涯学習のような取り組みの中で、自分の趣味というか、興味のあることからまちづくりにつなげていくということが、まずもってあるのかなというふうに思っております。確かに興味のない人に「まちづくりしませんか」と啓発しても、あまり効果がないというのは、E委員のおっしゃるとおりです。人によっては、なんらかの分野に関わっている、興味のある分野があります。例えば、先ほど申し上げた生涯学習などからまちづくりへ誘導し、関わっていけるような啓発の仕方をしていけばもっと地域全体というか、市内全体でまちづくり活動が盛んになるというふうな形に繋がっていくのではないかなというふうに思います。そういったアクションの仕方を工夫することが大切だと思いますので、ちょっと考えていきたいと思います。

【A 委員】 これがまちづくりというのも良いのですが、地域で何かやっている人に今やっていることがまちづくりになる、横に繋がるというようなことを進めていただく方法が良いのではないかと思います。

女性目線というのもまちづくりというのはこれから大切になってくると思います。今回新たに、二人の女性委員が入っていただきました。G委員、どうでしょうか。

【G 委員】 私が一番興味あったのは寺子屋事業です。教育に特化しているのは素晴らしい

ことだと思うのですが、せっかくモノづくりの市ということですので、化学的なことに興味を持てるような教育を入れていくと、何十年か先にすごい子が生まれてくるのではないかと思います。せっかく飛行機とか車の産業があるので、学校の授業で実験が少なくなつたと感じる中、寺子屋の放課後スクールを利用して、遊び的な要素の中に入れていき、勉強する目的を教えてあげる寺子屋事業だと、さらに各務原市ならではの事業になるのではないかと思います。

【A 委員】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

【企画政策課長】 寺子屋事業というのは、地域の資源を活用して地域全体で子どもたちを育てていくというのがコンセプトとしてございます。その中でも大きな柱を5つもっておりまして、基礎学力の定着、福祉体験学習という部分で、例えば、そういう地域にある高齢者や障がい者のいるような事業所へ子どもたちを連れていきまして、福祉を学ぶ機会を実施しております。

また、ふるさとの歴史発見事業ということで、市内には文化財とか史跡がありますので、そういうものをめぐるツアーというものもやっております。また航空技術産業の企業を訪問して、子どもたちに見てもらったりとか、生活関連ではカルビーさんの工場を見てもらったり、学校で習わないような幅広い福祉や産業だったり、そういった部分に少しずつ興味をもっていただき、将来へのステップアップとかキャリアデザインへつなげていけるよう実施しているところではございます。

【F 委員】 今のお話を聞いて、「まちづくり」という言葉は、市役所の皆さんがイメージしているものと、市民の方がイメージしているものと多分違うのかなと思うのです。そのところを埋めていかないといけないのかなと思います。「私は今こんなことを思っているけれど、これはまちづくりかな」というところを市民の皆さんがすごく思っていると思うのです。逆に、まちづくりと関係あると思っていなくてやっていることがまちづくりであったりして、「それ、まちづくりだよ。」とってあげたらいいと思うのです。そうすると、市民の皆さんもまちづくりに貢献できていると意識できると思います。

それから、「将来の夢や目標があると答える児童生徒の割合」や「授業をよく理解できていると感じる児童生徒の割合」が下がっているところで、地域人材活性化事業というのは本当にいいと思うのです。放課後学習教室というのもやっている。枠としてそういう子どもたちに加配しようという枠ができていくことはすごくいいことです。枠の中で、何が実際に起こっているのかということが大事です。地域講師の方がどういうふうにかかわっていくのかということが大事だと思います。

【企画政策課長】 ご提案のようでしたが、まちづくりの定義という部分については、私

の中でも担当課でも違うと思うのですが、基本的に広い意味のまちづくりで、市民の皆さんの広い活動、それ自体がまちづくり活動に繋がっていくものであると思います。そういったことを市民の皆様を示していくことが大事なのかなと思います。

二つ目は、地域の人材が子どもたちのことを思って、それぞれ学んでそれぞれの視点に立って、子どもたちが興味を持てるよう教える立場でもそのように子どもに対応し、ちょっとずつ興味を持ってもらえるような関わり方が大事なかなと思います。そういった部分もお伝えしたいと思います。

【H 委員】 寺子屋事業というのは、浅野市長が就任されてから始まった事業ですが、この事業は地域の方が教えておられて、市長が出向いてお話される時、よく地域の方からいろいろな声を聴きます。これは子どもたちの成長を見ながら、実は大人たちの成長を担っているというのが寺子屋事業なんじゃないかなと思います。

勉強ができる場所は、学校、塾やいろんな所がありますが、実は地域で子どもたちを見守り、子どもたちが地域に安心感を持って住んでいただけて、子どもより大人の方が成長し、地域の皆様が成長し、地域が一体となっている、それを目指すのが寺子屋事業のあり方として、我々としても勉強して皆様のご意見をいただきたい、一生懸命やっていきたいと思います。

また、先ほどモノづくりの話がありました。各務原市はモノづくり企業がたくさんありますし、モノづくり講座は今何コースありましたか。

【企画政策課長】 小学生は6コース、中学生は今年度より2コース新設しています。

【H 委員】 これだけのコースが持てるのはこのあたりでは各務原市だけだと思います。バラエティに富んでいる。市内産業は航空機だけではなくて、自動車産業だったり医療関係だったりいろいろありますけれども、航空機に特化しますと、今年は中学生の海外派遣事業で、市内の企業が作った小さな部品は、川崎重工に集められ、名古屋市、弥富町の工場に集められ、空輸でアメリカのシアトルに集められ、エバレット市でボーイング 787 機体になっていく。ボーイング 787 の 35%は日本が作っています。35%の部品を日本が作っているというのをエバレットの工場で見てもらう。これは数少ない自治体でしかできません。各務原市のメリットを生かして、そういうものを寺子屋事業の中でやらせていただいております。

【A 委員】 ありがとうございます。次の説明をお願いします。

【事務局】

- ・各務原市総合計画の達成状況 基本方針④～⑥ 説明略
《質疑・意見》

【A 委員】 何かご発言はありますか。

【E 委員】 検診の普及と火事で共通して思うことがございます。検診と火事について「これをしないと、こういうリスクがあるよ」という具体例を知っていただくことが大事ではないかなと思います。

また、火災の原因を具体的に知ってもらうことも大事です。火事の原因が何かということが近所で話題になって、プラモデルのボンドが引火したことやファンヒーターをつけたまま給油したことが原因だったとか、具体例を挙げて知ってもらうことで防げるのかなと思います。地域でやるのも大事だと思うのですけれども、リスクが伴うことは、具体例を1つでも2つでもあげて、知ってもらうことが大事だと思います。

【A 委員】 失敗の本質なんていう本もありますから、今おっしゃったように具体例の方が感じるところが大きいですね。

【H 委員】 受診率は県内で一番低いのですか。

【企画政策課長】 国保加入者の定期健診受診率の数字ですけれども、3年くらい前は県内で一番下の検診率でした。今は少しずつ改善し、下から8番目くらいです。地道な活動をして受診率の向上にはつながっています。

【H 委員】 このところは、もうちょっとやらせていただきたいなと思います。

【B 委員】 若い人というのは行政から健康のことを言われても、ほとんど右から左ではないかと思うのです。しかし、職場から健康に留意して管理しなさいよと言われると、行政より効く。柔軟な危機管理、その人の意識をどうやって高めるかということが大事です。施策を高めるといのは、そんなに難しくなくて、意識を高めるといのはすごく難しいことではないかと思うのです。

【D 委員】 この前、東海中央病院へ人間ドックの申し込みに行きましたら、来年一月までいっぱいですと断られましたが、学校教職員のためにあるだけではないはず。東海中央病院は、学校教職員が優先で、国保は後になりますということは、いかがなものか。東海中央病院には市民病院的な病院ということで、かなりのお金をつぎ込んでいるのに、検診がこうなので。

【F 委員】 特定検診の受診率というのは、特定検診を受けなければいけないだろうという対象の方が受けていないのか。それぞれの所属のところで受けられたりと、記載がありますが、それを除外しているのか。

【事務局】 国保の特定検診を受けられた方ということです。社会保険の中で受けられた方というのは数字がつかみにくいです。国保の特定検診を受けられた方のうち、保健指導の対象となった方という考え方でございます。

【A 委員】 次の説明をお願いします。

【事務局】 ・各務原市総合計画の達成状況 基本方針⑦～⑨ 説明略
《質疑・意見》

【A 委員】 何かご発言はありますか。

【E 委員】 「理系の子、来てね」というアピールは、名古屋の大学の学生さんたちが集まる一般就活セミナーがあるのですけれども、各務原市ではそういうところにアピールをしているのですか。理系はこれだけ有効求人倍率も高く、理系の確保が難しいというのだったら、名古屋の大学の集まる就活のイベントとかに積極的に出て行ったらどうか。

また、高校生でも各務原市から笠松町の岐阜工業高校に行っている子も多いと思うのですが、そういう学校に各務原市から何かしていることはありませんか。

【企画政策課長】 大都市圏ではありますが、東京、京都、名古屋などへ企業自身がブースを開いて自分の企業 PR をするという事は難しい部分がございますので、市と県が連携して、大都市圏への企業展でブースを用意させていただいております。企業の方がそちらへ行き、PR をさせていただいております。

また、愛知県の大学にも行きまして、学内での就職説明会とか就職セミナーに市内の企業を呼んでいただけるような取り組みということを展開していく予定をしております。

【C 委員】 各務原市は非常に明るくて魅力的な都市で、非常に魅力的な都市だと思います。まちづくりというのは、魅力的な都市を発信して人を集めて、各務原の活性化につなげるということが趣旨だというふうに認識しておりますが、一つのストロングポイントである企業さんとかかわりというのが、例えば、子ども・福祉、家庭・行政が一体となっており、そこに企業も含めていいと思います。

例えば、企業内託児所は単独企業ではできなくても、複数企業が合同で企業内託児所をする、それで市が助成をして、我々も資金を出してというような形で、企業が子育て、それから教育までかかわっても、非常に素晴らしいポテンシャルになるのではないかと思いますので、今も理系の就職ということもありましたけれども、まさしくそれは企業さんが危惧している課題ということです。

企業の強みを伸ばすことが一番良いと思うのですが、各務原市では強みはどこか。魅力ある企業さんが集まっている、強みのある都市だということを感じていただいて、

企業と行政と市民が一緒になってやるという施策は、非常に可能性を感じる場所です。

特定検診の例がありましたけれども、全然知らないので、申し訳ないけれども、例えば、企業から健康診断を受けろといわれると受けるので、企業側から検診を受けるよう促す仕組みとかいうのもできるのかと。各務原市が非常にポテンシャルの高い魅力的な都市だと思いますので、やり方次第でどういうふうにもなるかなと思います。

【A 委員】 まちづくりへの企業参加ですね、どうですか。

【企画政策課長】 先ほども地域人材活用事業ということで、市内にもいろいろな企業があり、人材もあります。そういった中、教育の面でもサマースクールというような部分で企業との関わりをもっている部分もあります。ほかの分野でも企業とのかかわりを持っている分野がございます。魅力ある企業が多いということなので、そういった企業の社会貢献という部分も含めて一緒になってまちを作っていくというような認識で同じ方向へ向かっていくということは、非常に大事だと思います。

あらゆる場面で企業さんのご協力などいただきながら、まちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

【A 委員】 ご協力といっても、要するに企業を利用するということです。川重さんにしろ、岐阜車体さんにしろ、川協さんにしろ、ご協力をお願いするというよりは、これ、やってよという感覚です。

【C 委員】 将来的には企業の収益に関わってくると思います。

【オブザーバー】 人材確保のことで、例えば、県内の企業広告をする方で、愛知県内企業と岐阜県内企業は、初任給がほとんど遜色ないらしいです。じゃあ、なんで愛知県、名古屋へ行くのという話をすると、やっぱりブランドとか親御さんの希望ということが出てきます。各務原市で生まれ育った親御さんたちは、実は各務原市内に優良企業がいっぱいあることを知っているのだろうか。あるいは、名前は知っているけど、全然イメージがわからないから、各務原市に就職するというのは最初から選択肢にないのではないかと思ったわけです。

各務原市の企業というのは、エンドユーザーに直接タッチすることはない。一方で、教育は、誰もしが最後の車に乗っている。市内企業はユーザーに直結しているところがないので、各務原市民、特に親御さんに、各務原市にはこれだけいい企業があるのだということを知っていただく努力を強化してほしい。人を育てるだけで全部よそへもっていかれてしまう。各務原市でいい教育を受けて、そのあと大学は県外の大学へ行って戻ってこないことがある。子どもの頃から各務原市にはこんな企業があるのだよと、親御さんに就職で

きる企業がこれだけあるということをアピールすることが必要です。

企業見学の話ですが、子どもはそれを見て何か思うのか。ただ、そういう会社があるのだと思うだけで、モノづくりという目線でモノを考えていけば、実際手を使わないといけないと思うのです。工作をすとか金属加工すとか、すごい機械を使っているとかでなく、自分で加工すとか体感しないとモノづくりってわからない。子どものときに実際に自分で手を動かしてモノを作る。それが発展して数学の話ということになる。最初から座学みたいな話になると、モノづくりの本質からかけ離れてしまうということも含め、長期的な視点で、より効率的な施策も考えた方が将来的にはいいのではないかと思います。

【A 委員】 次の説明をお願いします。

【事務局】 説明略

- ・各務原市総合戦略の達成状況について
- ・しあわせ実感かかみがはら総合戦略への KPI 追加について

【A 委員】 以上で説明は終わりました。

まず、資料 7 について、しあわせ実感かかみがはら総合戦略への KPI を付け加えさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

【A 委員】 ありがとうございます。それでは追加するという事に承認をいただきました。次回以降は含めた会議の内容にしていきたいと思います。

それでは、全体をまとめた形でご発言がありましたら、お願いします。

【D 委員】 学校教育に関して、事業の達成指標というのがあるのですが、こういう出し方がいいのかというのは何かひっかかります。私は民生委員もやっております、那加東民生児童委員協議会の中で、那加第 2 小学校への学校訪問へ行ったとき、1 年生から 6 年生、特別支援学級の授業参観を見た後、先生方と懇談があるのですが、授業参観をしたときに教室の配置が変でした。といいますのは、1 階に 1 年、2 年生のクラスがありますけれども、そのクラスの間には 5 年 3 組がありました。3 階が 4. 5. 6 年生の教室なのですが、なぜ 5-3 だけ 1 階にあるのかをお尋ねすると、5-3 の男子生徒が足の骨を折って入院していましたが、退院して通学することになり、車いすに乗らないと通学できない。しかし、体が大きいので、クラスの同級生が担いで 3 階まで上がるというのは無理だということで、どうしたらいいだろうかと、担任の先生が生徒に相談をしたそうです。すると、生徒から 1 階の 1 年生と 2 年生のクラスの間を開いている教室がある、そこを使えませんかと提案があった。車いすの男子生徒を 3 階まで上げることはできないが、5-3 が 1 階に移動すればいいのではないかという提案があり、5-3 のみんなが同意したのです。いろいろご苦労もあったと思いますが、男子生徒も 1 階なら自力で通学できるということでした。子どもたちの純真な思

いやりに感動をしたのですが、子どもたちの他人に対する思いやりがあるかどうかという指標があったらいいと思いました。

【A 委員】 いいお話ですね、ありがとうございました。ほかにありませんか。

【B 委員】 教育委員会制度が変わりまして、当時市長さんが変わりましたものですから、どんなふうになるかなと内心思っていたのですが、浅野市政は本当に現場をよく見られる。そして、現場の皆さんの声を聴かれる。現場の校長先生、あるいは先生方は大体な使命感を持っておられる方が多いのですけれども、それに拍車をかけていただけるような、応援団になっていただけるような姿勢がございます。新しい教育委員会制度に進んだのですが、いい形で各務原市は進んでいると実感しています。各務原市の教育に対するいろんな施策は本当にきめ細かいところまで施策がなされていると思います。なおかつ、市長さんが現場の声を聴いたそのものが教育委員会に上がってきまして、それぞれの事業に特段の配慮をして、考慮をして事業がなされている。私は大変素晴らしい姿だと思います。

そういう中で、これはどうかということだけご指摘を申し上げたいと思います。

8 ページ 学校経営振興事業の対策です。「各学校の取り組みの成果を冊子にまとめ」とありますが、先生の仕事を増やすようなことは少し再検討をしていただけないかということをおもいます。

そして、地域資源の活用、各務野立志塾ですが、本当にすばらしい。行政の企画であっても、あれだけの一般企業、産業界の皆さん、それから大学の関係者の皆さんなど、そうそうたる方をもって、効果というのは歴然としている。学校経営予算もいろんな条件があるでしょうが、企業が学校に積極的にかかわりを持っていただき、また、学校の先生方には子どもを育てる力のある先生になってほしい。今度の教育センターにも期待をしております。

【A 委員】 時間も詰まってまいりましたが、ご発言はありますか。

【E 委員】 各務原市はポテンシャルをもっているとすごく思いました。市がこれからやっていかなければならないのは、全部各課にやっていただいていると思うのですけれども、つなぎ役をするのが、総合計画を取り扱っている部署だと思うのです。

老後も安心して住める率というのは、前も低かったけれど、今もやっぱり低いので、どうしたら老後も安心して住めるのかということは、今あるものをどう生かして、どうつなげていくかということが、総合戦略を扱っているところの重要な役目だと思うので、ぜひポテンシャルを掘り起こしてほしいなと思います。

【H 委員】 少し宣伝させていただくと、7/15 に教育センターをオープンしました。今まで先生方の研修や子どもたちの悩み相談が各種バラバラのところで行っていたのを教育セ

ンターでやっていきます。

それから、7/22 イオンの中に移住定住のブースを開設します。移住定住に特化して大規模商業施設にオープンするのは日本初だと思います。イオンに来ている6~7割は市外の方です。しかも20代~30代が一番ボリュームありますので、その世代に対して宣伝していきたいということがございます。

それから、岐阜工業高校の4分の1が各務原市の生徒ですが、愛知県に行ってしまうと戻ってこない。ですから、教育施策を積み重ねていますが、東京とか名古屋にあこがれている世代というのはひょっとしたら親の世代で、実は子どもは東京とかにあこがれていないかもしれません。いろいろアイデアをいただきましたので、しっかりやらせていただきたいと思いました。

【A委員】ありがとうございました。以上でまちづくり推進会議を閉会します。

【事務局】

・今後の日程について（7月26日頃開催予定）